

平和を仕事にする

自衛隊員である誇りと使命を胸に

自衛隊員は、数ある仕事の中でも「平和を仕事にする」を胸に、誇りをもって社会に貢献できます。

ここでは、自衛隊がどのような仕事をし、自衛官になるためにはどのようなコースがあるか紹介します。

自衛隊とは

「平和を、仕事にする。」
その誇りがあります。

みなさんは、自衛隊の仕事を知っていますか。

「国の平和と独立を守る」という重要な使命のもと、わが国に対する侵略行為には即座に対応し、自然災害時には人命救助と復興に尽力する。さらには自衛隊の力を必要とする諸外国に赴き、国際社会の平和にも貢献しています。



自衛隊で働くということ

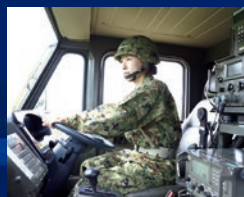
さまざまな形で社会に貢献できる、
幅広いフィールドがあります。

自衛隊には多様な働き方（コース）、多くの職種・職域があり、自分の興味や得意分野を活かしながら、一人ひとりがイメージする「将来の自分」を実現できる幅広いフィールドが広がっています。また、自衛隊員は特別職国家公務員としての身分が保障されており、給与、保険など安定した処遇・福利厚生のもと、目標に向かって邁進することができます。

活躍のフィールド

陸上自衛隊

14万人を超える隊員が日本の平和と独立を維持するべく、日夜任務に励んでいます。万一、国土への侵略があった場合には、防衛の中心的な役割を担います。



海上自衛隊

海洋国家である日本の国土防衛の最前線で活躍し、平素から我が国安全保障に影響を及ぼす事態に適切に対処するとともに、生命線である海上交通の安全確保に努めています。



航空自衛隊

飛行部隊をはじめ、警戒官制部隊や高射部隊により、日本の領域を侵犯する航空機や弾道ミサイルなど、空からの脅威を未然に防ぎます。



1. 自衛隊の仕事図鑑

陸上自衛隊の主な職種一覧

	普通科 地上戦の骨幹部隊として、機動力、火力、近接戦闘能力を有し、作戦戦闘に決着をつける重要な役割を果たします。		特科(高射特科) 高射特科部隊は、対空戦闘部隊として侵攻する航空機を要撃するとともに、広範囲にわたり迅速かつ組織的な対空情報活動を行います。		施設科 戦闘部隊を支援するため、各種施設器材をもって障害の構成・処理、陣地の構築、渡河等の作業を行うとともに、施設器材の整備等を行います。
	機甲科 戦車部隊と偵察部隊があり、主に戦車の正確な火力、優れた機動力及び装甲防護力により、敵を圧倒撃破します。		情報科 情報に関する専門技術や知識をもって、情報資料の収集・処理及び地図・航空写真の配布を行い、各部隊を支援します。		通信科 各種通信電子器材をもって部隊間の指揮連絡のための通信確保、電子戦の主要な部門を担当するとともに、写真・映像の撮影処理等を行います。
	特科(野戦特科) 野戦特科部隊は、火力戦闘部隊として大量の火力を随時随所に集中して広域な地域を制圧します。		航空科 各種ヘリコプター等をもってヘリ火力戦闘、航空偵察、部隊の空中機動、物資の輸送、指揮連絡等を実施して、広く地上部隊を支援します。		武器科 火器、車両、誘導武器、弾薬の補給・整備、不発弾の処理等を行います。

海上自衛隊の主な職種一覧

	射撃 護衛艦等において、砲、ミサイルを操作し、各種目標に対する攻撃を実施します。また弾火薬等の取り扱いを実施します。		気象・海洋 気象・海洋観測、天気図の作成、気象・海洋関係の情報の伝達に関する業務を行います。		飛行 P-3C/P-1哨戒機、US-1A/2救難飛行艇、SH-60J/K艦載ヘリコプター等の搭乗員として飛行任務を実施します。
	通信 陸上基地、艦艇及び航空機等の通信、暗号の作成及び翻訳、通信器材・暗号器材及び関連器材の操作整備を業務とします。		航海・船務 航海は、艦艇の艦橋において航海に関する業務を実施します。船務はレーダー・電波探知装置等を活用し、戦術活動を実施します。		機関 エンジン(ガスタービン、ディーゼル等)発動機等の運転、整備及び火災、浸水対処等を業務とします。
	水雷 護衛艦、潜水艦で魚雷等の水中武器、ソナー等の水中搜索機器を操作し、潜水艦の搜索、攻撃及び器材の整備を行います。		給養 艦艇及び陸上部隊において、隊員に対する給食業務を実施します。		航空機整備 航空機の機体、エンジン及び計器並びにこれらを維持するための器材等の整備、修理、補給等に関する業務を行います。

航空自衛隊の主な職種一覧

	飛行 戦闘機、輸送機、偵察機及び政府専用機などを操縦し、防空、偵察航空、航空輸送及び航空救難などを行います。		高射 侵攻してくる航空機や巡航ミサイルを撃破するため、ペトリオットミサイルシステムの操作及び器材の整備を行います。		通信 通信器材を操作し、電報等の送受信を行うほか、器材の整備管理等を行います。
	航空管制 航空自衛隊の飛行場(共用飛行場を含む)における航空交通管理業務を行います。		電算機処理 電子計算機及び関連器材の操作やプログラムの作成、電子計算機システムの管理を行います。		武器弾薬 航空機に搭載される武器弾薬等の補給、管理、整備を行います。
	警戒管制 日本の領空を常時監視し、接近又は侵入してくる航空機を早期に発見・識別し、必要に応じて戦闘機の誘導を行います。		気象 航空機の離着陸及び飛行安全確保のため、気象観測・予報を行い、各種気象情報を全国の部隊に通報したり、天気図の作成を行います。		航空機整備 航空機のエンジンや搭載する電子機器類、レーダー等の整備及び航空機の定期整備を行います。

自衛隊はいろいろな職種のプロフェッショナルによって成り立っています。
陸・海・空自衛隊には、きっと皆さんも興味を持つ様々な職種・職域があります。

14万人を超える隊員が日夜任務に励んでいます。万一、国土への侵略があった場合には防衛の中心的な役割を担います。



需品科

糧食・燃料・需品器材や被服の補給、整備及び回収、給水、入浴洗濯等を行います。



警務科

警護、道路の交通統制、隊員の規律違反の防止、犯罪捜査など部内秩序の維持に寄与します。



音楽科

隊員の士気を高揚するための演奏や広報活動に関する演奏を行います。



輸送科

大型車両をもって部隊、戦車、重火器、各種補給品を輸送するとともに、輸送の統制、ターミナル業務、道路交通規制等を行います。



会計科

隊員の給与の支払いや、部隊の必要とする物資の調達等の会計業務を行います。



化学科

各種化学器材をもって放射性物質等で汚染された地域を偵察し、汚染された人員・装備品等の除染を行います。



衛生科

患者の治療や医療施設への護送、部隊の健康管理、防疫及び衛生器材の補給・整備等を行います。

海洋国家である日本の国土防衛の最前線で活躍しています。海上交通の安全を確保します。



経理・補給

給与・旅費等の計算、物品等の調達、部隊の任務を遂行するために必要な装備品等を準備し、供給する業務を実施します。



情報

情報資料の収集、処理及び情報の配布、秘密保全等を業務とします。



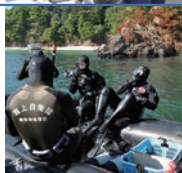
音楽

音楽演奏を通じて隊員の士気を高揚します。また、広報活動に関する業務を行います。



航空管制

飛行場で離着陸する航空機又は飛行場周辺を飛行する航空機の無線・レーダー等での誘導等を業務とします。



潜水

浅海域における簡単な水中作業や機雷・不発弾等の爆発物の搜索・処分、深海域における潜水艦等の乗員の救助に従事します。



掃海機雷

掃海艦艇等で機雷探知機、掃海具等を操作し、機雷の処分及び機雷の調整、器材の保守整備を行います。



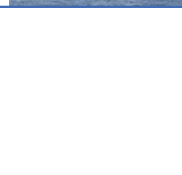
施設

国有財産についての管理、運用、施設器材・施設車両を用いての建設、道路等の工事及び器材の設備を行います。



衛生

病院における医療及び医務室における健康管理や身体検査を実施するとともに、潜水に関する調査・研究を業務とします。



飛行部隊や高射部隊などにより、日本の領域を侵犯する航空機や弾道ミサイルなど、空からの脅威を防ぎます。



施設

基地内施設の維持管理（土木・建築・電気等）及び航空機事故や建物火災等非常時の消火、人命救助等を行います。



警備

基地内巡察などを行い、基地の施設や物品等の警戒等を行うほか、基地内出入者の監視等を行います。



衛生

隊員の健康診断及び各種身体検査のほか、医療保険、環境衛生、食品衛生検査を行います。



音楽

航空自衛隊には5つの音楽隊があり、国の行事や自衛隊の公式行事の時に演奏を行います。



補給

航空自衛隊で使用する物品の需給統制、在庫管理、取得出納、保管等を行います。



輸送

航空自衛隊で装備・使用されている車両で、人や貨物を輸送したり、航空機へ貨物を搭載する業務を行います。



2. 自衛官になるための様々なコース

自衛官候補生



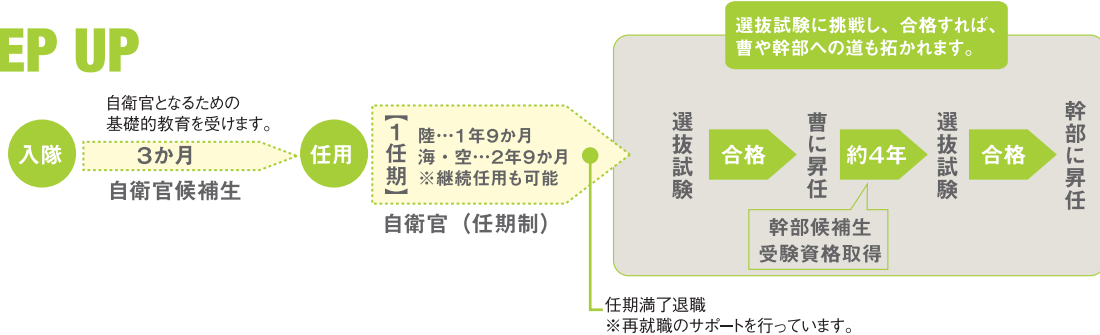
詳細はこちらから

技術と体力を一心に磨く任期制自衛官

自衛官となるために必要な基礎的教育訓練を経て、任用期間の定められた「任期制自衛官」に任官します。様々な教育訓練や職務を通じた技術の習得、任期満了後の再就職に向けた資格の取得など、希望にあった将来設計が描けます。

任期満了後も任期を継続する道や選抜試験を経て曹に昇任し非任期の自衛官になる道も開けています。任期満了で自衛隊を離れる場合には民間企業などの再就職支援をしっかりと行っています。

STEP UP



一般曹候補生



詳細はこちらから

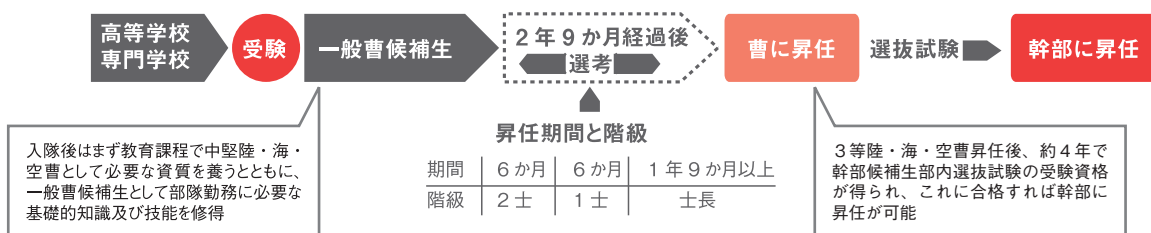
部隊の中核となる自衛官を目指す

部隊の基幹隊員である陸・海・空曹自衛官を養成する制度です。

入隊後、教育課程や部隊勤務で知識や経験を積み、それぞれの職域のプロとして活躍します。

自衛官の基礎知識はもちろん専門的な技能まで、じっくりと着実に身に付けながら自分のペースで成長することができます。

STEP UP



自衛官になるといっても、その職域や進路は多種多様です。
希望や適性に応じて最適なコースを選択することができます。

自衛官候補生

一般曹候補生

自衛官への第一歩



採用試験（女子）



多くの方が祝い・応援してくれる入隊励会



同期とともに新たな世界へ

基礎的教育訓練



部隊での活躍

国の防衛



それぞれの職域のプロとしてわが国防衛のために貢献

災害派遣



自然災害時には人命救助・復興に尽力

国際平和協力



国際社会の平和に貢献

培った技能を生かし
民間で活躍

職域のプロとして自衛隊で活躍

防衛大学校学生

国を思い自分を見つめる若人



詳細はこちらから

将来、各自衛隊の幹部自衛官となる者を4年間の教育訓練と全寮制の規律ある団体生活を通じて養成します。広い視野、科学的な思考力、豊かな人間性を持ち、創造力と活力に溢れる優れた幹部自衛官となるため、知育以外に徳育と体育を重視しています。

STEP UP

防衛大学校

4年

卒業

陸・海・空曹長

約1年
幹部候補生学校

3等陸・海・空尉

初級幹部自衛官として必要な知識及び技術の修得のための教育を受けます。

各部隊などに配属

さらに将来は自己の能力と努力、部隊勤務と教育を重ね、各種特技や上級課程の教育を受け、指揮官・幕僚・教官・研究員など、国の防衛の任を果たす地位につくことができます。

指揮官・幕僚
教官・研究員など

自衛隊の職種・職域に応じた専門教育を受けながら幹部としての道を進みます。

年間行事

「学び、鍛え、親睦を深める」をモットーに、年間を通して多彩な行事が行われています。



※作業服に半長靴、背のう、水筒等約10kgの装備を身につけて7kmのコースを8名1チームの集団で走るタイムレース

学生の1日



06:00 起床
06:35 朝食
08:10 国旗掲揚
08:15 課業行進
08:30 午前授業
12:00 昼食
13:15 午後授業
16:30 校友会活動
17:15 国旗降下
18:15 夕食
19:45 自習
22:30 消灯



校友会活動

校友会活動(クラブ活動)も盛んで、全員が加入し、友情や気力・体力、連帯感を養います。



一般幹部候補生



詳細はこちらから

指揮を執る。この国を守り抜くために

防衛大学校と一般大学の卒業生が、陸・海・空自衛隊それぞれの幹部候補生学校において、自衛隊組織の骨幹である幹部自衛官として必要な知識と技能を学びながら、その資質を養います。



陸自幹部候補生学校 (久留米)



海自幹部候補生学校 (江田島)



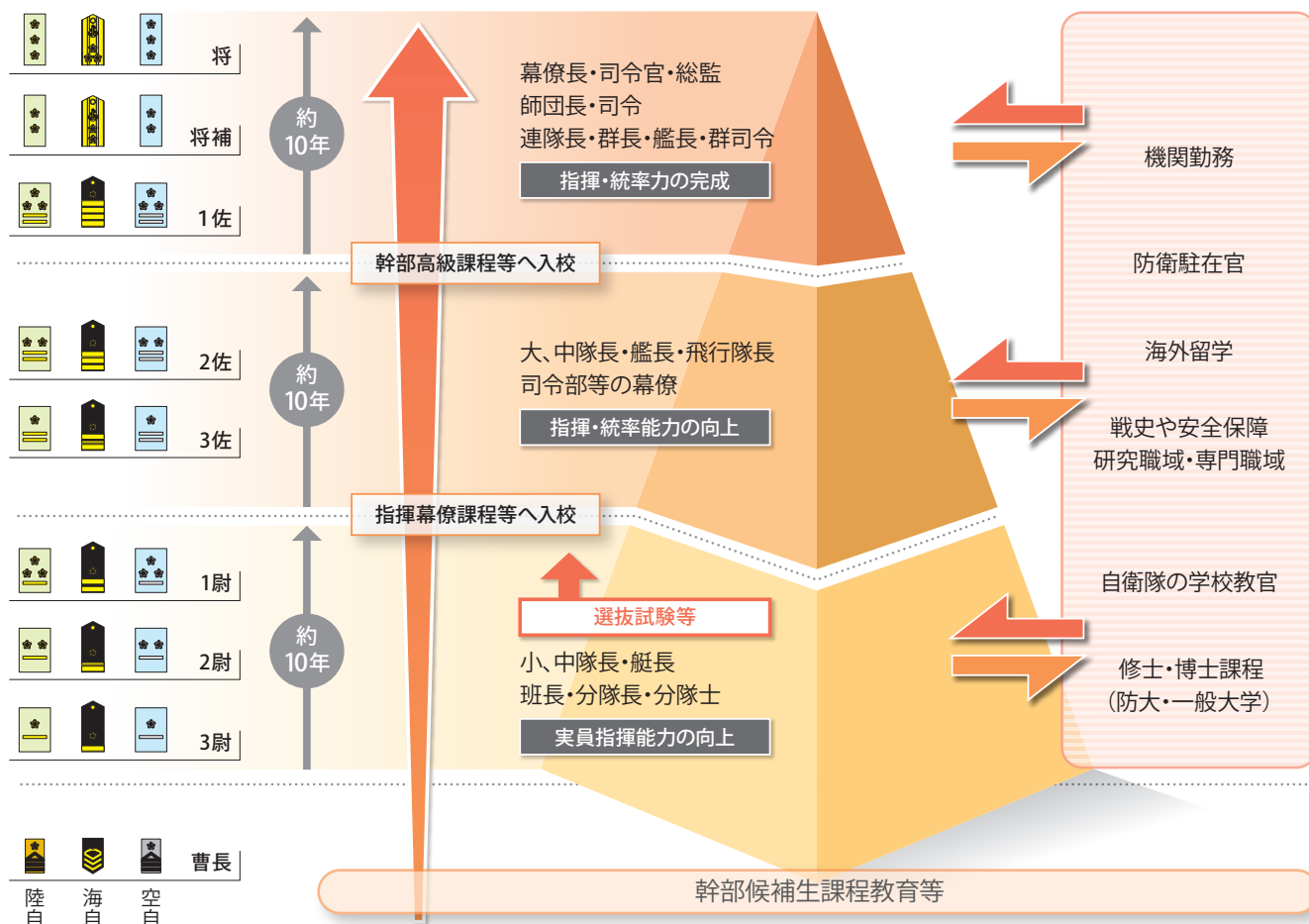
空自幹部候補生学校 (奈良)



陸海空幹部候補生学校における訓練の様子



キャリアアップ



防衛医科大学校医学科学生

生命をつなぐ平和と医療の先駆者



詳細はこちらから

将来、医師である幹部自衛官となる者を6年間の教育訓練と全寮制の規律ある団体生活を通じて養成します。医師としての知識や技能のほかに、生命の尊厳への理解やあらゆる任務を遂行できる強靱な体力も養います。

STEP UP

防衛医科大学校

6年

医師国家試験

卒業

陸・海・空
曹長

幹部自衛官として必要な知識及び技術の修得のための教育を受けます。

約6週間
幹部候補生学校

合格
卒業

2等
陸・海・空尉

医師免許を取得した者は、2年間の臨床研修を防衛医科大学校病院などで受けます。

2年
防衛医科大学校病院
などで臨床研修

各自衛隊病院、部隊

※自衛隊を退職する場合
やむを得ぬ理由で、卒業後9年未満に自衛隊を離職する場合は、卒業までの経費を償還しなければなりません。償還金の額は隊員としての勤務期間によって計算されます。
例) 平成27年3月の卒業生の償還最高額4,387万円。

医師国家試験に合格し、かつ
幹部候補生学校を卒業した者は2等陸・海・空尉に昇任。

学生生活など

学生の1日



06:30 起床
06:40 朝食
08:00 国旗掲揚
08:15 課業行進
08:30 午前授業
11:50 昼食
13:00 午後授業
17:00 学友会活動
17:15 国旗降下
17:30 夕食
21:00 自習
24:00 消灯



校友会活動

校友会活動(クラブ活動)も盛んで、原則全員が加入し、看護学科と合同で練習を行っています。



防衛医科大学校看護学科学生

人を救う保健師・看護師に



詳細はこちらから

将来、保健師・看護師である幹部自衛官となる者を4年間の教育訓練と全寮制の規律ある団体生活を通じて養成します。看護専門職者としての優れた教養・知識・技術の実践を通して、防衛省・自衛隊の国内外における活動に貢献できる人材を育成します。

学生の1日



06:30 起床
06:40 朝食
08:00 国旗掲揚
08:15 課業行進
08:30 午前授業
11:50 昼食
13:00 午後授業
17:00 学友会活動
17:15 国旗降下
17:30 夕食
21:00 自習
23:00 消灯



航空学生



詳細はこちらから

大空で活躍する夢を最年少で実現

海自または空自のパイロットなどを養成します。

団体生活を送りながら各種訓練を受け、戦闘機、哨戒機、輸送機、ヘリコプターなどのパイロットなどに最年少でなることができます。



海上自衛隊で搭乗できる主な機種の例



SH-60K



P-1



航空自衛隊で搭乗できる主な機種の例



F-2



UH-60J

高等工科学校生徒



詳細はこちらから

技術的スペシャリストへの入り口

高機能化・システム化された装備品を運用する陸上自衛官となる者を養成するための学校です。

国際社会においても自信を持って対応できる自衛官を育てます。



一般教育



専門教育



防衛基礎学

予備自衛官補

参照 P.416

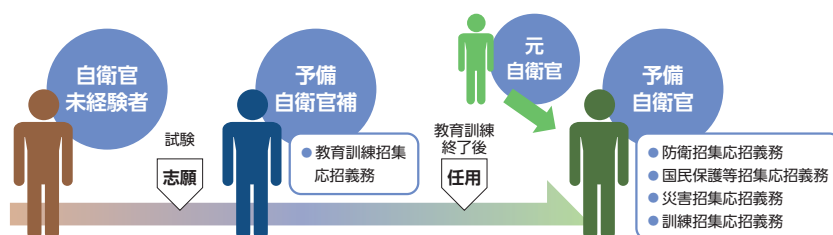


詳細はこちらから

自衛官未経験でも予備自衛官に

社会人や学生といった自衛官未経験者であっても、「予備自衛官補」として教育訓練を受ければ、「予備自衛官」に任用され、各種事態において自衛官として社会に貢献できます。

「一般」と「技能」（語学、医療など）のコースがあります。



※詳細につきましては、ホームページをご覧ください。 **自衛官募集ホームページ** <http://www.mod.go.jp/gsdf/jieikanbosyu/>